

移植医療の推進に関する研究

研究分担者 江川 裕人 東京女子医科大学 消化器・一般外科 教授

研究要旨：

1) 日本救急医学会（2019年10月2日～4日）、日本脳神経外科救急学会（2020年2月7日—8日2）にブースを出展し、臓器移植の現状について情報提供を行うとともに、横田班成果物である臓器提供ハンドブックの展示・説明を行なった。2) 移植施設負担実態調査の結果に基づき負担軽減策を立案し、腹部臓器摘出における負担軽減策が実現した。

A. 研究目的

移植医療を構成する臓器提供領域と移植領域に関わる医療人に共通の基盤概念を明らかにして両領域で共有することで安定した移植医療が恒常的に行われるシステムを構築すること。

B. 研究方法

1) 救急関連学会にブース展示を行い情報共有に努めることで、脳神経外科・救急関連医療人の移植への理解を進めるとともにその情報を移植医・レシピエントコーディネーターに共有させ提供現場の実情を理解させる。

2) 実態調査と移植施設へのアンケートに基づいた施策案を実行に移す。

（倫理面への配慮）

展示、発表時の個人情報保護に留意する。

C. 研究結果

1) 日本救急医学会（2019年10月2日～4日）、日本脳神経外科救急学会（2020年2月7日—8日）にブースを出展し、臓器移植の現状について情報提供を行うとともに、横田班成果物である臓器提供ハンドブックの展示・説明を行なった。

2) 実態調査の結果、摘出手術のための来院の前に提供施設に移植医が出向き評価と管理支援を行うメディカルコンサルタント制度の負担軽減の重要

性と腹部臓器チームでの摘出手術時互助制度の実現可能性が確認された。提供施設の集中治療医がドナー管理を担うことで最新のエビデンスに基づく管理を導入しかつメディカルコンサルタントの負担軽減を測る事業が厚労科研鳴津班に引き継がれることになった。また、腹部臓器摘出に関して、提供施設の近隣移植施設による摘出支援による移動距離の短縮と肝臓チームの手術機器を共有することで他腹部臓器チームの人員削減と搬入機材削減、提供施設からの手術機器提供推進が、日本移植学会、日本肝臓移植学会、日本臨床腎移植学会、日本膝・髌島移植研究会の協力を得て、制度として導入された。

D. 考察

臓器提供は終末期の選択の一つであり自分たちの患者のために行なっているという概念が、救急関連の現場で浸透されるようになってきた。臓器提供が増加する中で過酷な労働環境である救急・移植の現場の負担軽減が重要になってくる。

提供施設に、事前評価とドナー管理、摘出手術に多くの外科医がそれぞれ手術機材を持参する現状は、移植医ばかりでなくそれを受け入れる施設にとっても、人的にも環境的にも負担が大きい。移植医と機材の移動を減らすことで、医療資源の有効活用が可能となり、移植患者の成績が向上し、臓器提供の意思に応えることにつながる。

E. 結論

本研究を通じて、救急関連学会に移植医療への理解を広めることができ、移植医の負担軽減が実現し、今後、さらなる進展が期待できる。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

1. 渥美生弘：臓器提供ハンドブックの作成・臓器提供現場の負担を軽減するワークショップ3「Organ Procurementの問題点と改善策」日本移植学会 広島
2019年10月12日
2. 蔵満薫：摘出体制を再構築するための課題。いかにして現地入りする移植医数は削減できるのか。ワークショップ3「Organ Procurementの問題点と改善策」日本移植学会 広島 2019年10月12日

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし